

学校運営連絡協議会 評価委員長

横浜国立大学

教授 渡部 匡隆

〈総評〉

1. 回収率について

令和4年度学校評価アンケートは、令和3年度よりも質問項目数を減らし(20項目から13項目)、内容も精選した。実施方法は、令和3年度に続きインターネット(フォーム)での回答を主としながら質問紙による回答も選択できるようにした。

児童生徒アンケートの回収率は81%であり、令和3年度から7ポイント増加した。児童生徒の意見は、目指す学校像の実現に大きな手がかりとなるだけでなく、児童生徒にとっても意思表示の学びの機会となる。アンケート回収方法について、一人1台タブレット端末を使って、自分で回答できる児童・生徒もいたこともあり、次年度もタブレットを使って選択式で回答できる方法にも取り組んでほしい。合わせて、回収率の増加をもたらした要因とともに、回収できなかった要因についても分析を行い、できるだけ多くの児童生徒からアンケートを回収できるようにしてほしい。

保護者、教職員の回収率は59%と100%であった。令和3年度に続き全教職員から回答が得られたが、保護者の回収率は10ポイント減少した。保護者の教育活動への参画は、児童生徒の発達支援に重要な意味をもつことから、保護者に学校評価アンケートの実施内容や実施方法についての聞き取りを行い、回収率の向上に向けて引き続き、取り組みを続けてほしい。

2. 全体的な回答傾向について

(1) 保護者・教職員

保護者の回答について、満足が9割以上であった項目が1項目(Q6「4S 活動の推進」)、8割以上が4項目(Q1「学校経営計画の教育部門毎の作成」、Q3「教育方針等の分かりやすい周知」、Q10「生活安全、交通安全、災害安全に関する取組」、Q11「感染症の発生や感染拡大のリスク低減対策」)、7割台が5項目(Q2「東京型教育モデルの実現を目指した教育の推進」、Q4「研究活動(授業改善)の充実」、Q8「児童・生徒のロールモデルとなる教職員集団づくり」、Q9「具体的な健康課題に関する取組」、Q13「体罰の禁止・根絶やいじめ等の未然防止・早期発見・早期対応の取組」)、6割以下が3項目(Q5「次年度の教育活動の充実」、Q7「授業等におけるICT機器の活用の推進」、Q13「教職員のライフ・ワーク・バランス推進のための対策」)であった。

教職員の回答は、13の質問項目のうち12項目で満足が9割を超えていた。9割を下回る項目は、Q12「教職員のライフ・ワーク・バランスの推進」であった。令和3年度と同じ質問項目ではないため直ちに結果を比較することはできないが、教職員から令和3年度に続き、極めて高い評価が得られた。自らの仕事や職場に高い満足感を持っていること、効果的な組織づくりやチームづくりが進んでいることが伺える。一方、「教職員のライフ・ワーク・バランスの推進」についての満足は73%であった。その一因として、新型コロナウイルス感染症の予防対策に加えて宿泊行事等の再開も影響していると考えられる。教職員の働き方改革は難しく大きなチャレンジであるが、教職員の73%である要因を分析し、都や国をリードする取り組みを期待したい。

保護者、教職員アンケートから総じて高い評価が得られていることから、引き続き、現在の学校運営を積極的に推進することを期待する。その際、次の点について留意してほしい。保護者の満足が7割台、6割台であった項目では、自由記述において「取組や成果がわからない」「自分の子供にどう関係するか、自分の子供がどう取り組んで

いるかわからない」といった意見があった。もちろん、それらにはコロナ禍により宿泊学習等のさまざまな行事が延期、中止になったこと、授業参観をはじめ学校に登校する機会が著しく限られたことなどにより保護者と学校との心理的な距離感や見えにくさ、分かりにくさが強まったことも影響しているかもしれない。

加えて、例えば、東京型教育モデルについて、教職員はその考え方を理解し、担当する児童生徒一人一人に自分らしさや自分らしく成長する姿を描き、その実現のための教育実践に取り組んでいる。ところが、保護者には、どうしても用語や理念が先行してしまい、新たな考え方やその取り組みがわが子とどのようにつながるのか、わが子にどんな良さや効果をもたらすのか具体的なイメージをもちにくいことも考えられる。そのことが、「分からない」といった記述となっているかもしれない。それらを改善する1つの方法として、担任から保護者への発信が考えられる。新たな理念や取組を個々の児童生徒にどのように取り入れ、どのような教育実践をしているか実践的なレベルで、しかも、児童生徒に身近な存在である担任から伝えることでより、考え方や取り組みの意義を身近に感じられるかもしれない。難しさはあるが、保護者からの回収率の増加とともに、「分からない」という回答を少しでも減らすように取り組みを進めてほしい。

(2) 児童・生徒

児童生徒が、自分には「好きな授業や教科がある」と自信をもって表明できることは、とてもすばらしく、価値がある。9割を超える児童生徒が「好きな授業や教科がある」と回答した現在の教育活動を高く評価したい。今後、この成果を持続・向上していくために、なぜ好きなのか、どのような活動や取り組み方を児童生徒が評価しているのか把握・分析し、それらを保護者と共有しながら、質の高い教育活動を継承・発展してほしい。

一方、嫌い・苦手な授業や活動があるという回答が27%みられていた。得意、不得意、得手、不得手があることは当然のことである。だからこそ、それぞれの持ち味があり、個性になると考える。ただし、児童生徒の実態として基礎・基本となることを学ぶことにもかなりのハンディキャップがあったり、十分に学べないことで自立と社会参加、さらには自分らしく豊かに生活することのバリアーとなったりすることは望ましいものではない。一人一人の実態把握、アセスメントを丁寧に行うとともに、嫌い、苦手さをもたらしている環境要因を分析し、児童生徒が「授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていく」ための不断の授業改善を進めてほしい。

ウィズコロナの時代が本格的にスタートする。すべての児童・生徒が主体的、意欲的に活動できるウィズコロナにおける授業づくりや行事のあり方についてハイブリッドを含めて模索するとともに、保護者、地域が一体となってそれらの取り組みを支えていけるように学校運営連絡協議会も役割を果たしていきたい。

〈各項目について〉

1 今年度も学校経営計画を教育部門ごとに作成しました。また、学校の教育目標を達成するための基本方針を学部ごとに作成し掲載しました。

・学校教育目標の達成するために基本方針を示されたことは、すべての関係者に分かりやすかったと考えます。一層の理解浸透に向けて、説明を継続するようにしてください。

2 東京型教育モデル(児童・生徒が自分らしく成長していくための学び)の実現を目指した教育を推進しました。

・児童生徒が意欲的に授業に参加している姿がありました。引き続き、東京型教育モデルを推進し、児童・生徒の QOL の向上を目指してください。

3 学校だよりや学校ホームページを充実させ、本校の教育方針等を分かりやすく周知しました。

・学校だよりの用紙サイズを拡大や、学校ホームページの情報の更新の速さといった工夫を継続し、今後も迅速で分かりやすい情報発信をお願いします。

4 「児童・生徒が自分らしく成長していくための学び」を実現するために、研究活動（授業改善）の充実を図りました。

・児童生徒が自分らしく成長することを実現するため、個々の実態に応じた指導の充実に向けて研究活動を継続し、授業改善を進めてください。

5 今年度の研究活動の成果に基づいて、次年度の教育課程の改善に努めました。

・研究活動の成果報告も有意義な取り組みになりますが、カリキュラム・マネジメントの観点から、教育課程の改善に生かし、児童・生徒の自分らしい成長につなげていくようにお願いします。

6 「4S（整理、整頓、清潔、清掃）」活動を推進し、安全・安心な学校づくりに努めました。

・昨年度からの取り組みが校内に浸透し、あたりまえのことのように定着してきていると評価できます。今後も自律的な活動として継続していくようにお願いします。

7 外部専門家と連携し、授業等における ICT 機器の活用を推進しました。

・児童・生徒の学習や生活の充実に ICT 機器をどのように活用していくのか、授業の中でどのように活かしていくのか、外部専門家と連携をしながら学校として継続的に取り組んでいくようにお願いします。

8 本校の教職員行動指針に基づき、児童・生徒のロールモデルとなる教職員集団づくりに努めました。

・職員行動指針が多くの教職員に浸透していると思います。児童・生徒が憧れる、良い大人の手本となるように取り組みを継続するとともに、同僚性の高い教職員集団となることを期待しています。

9 学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健所等と連携し、具体的な健康課題（感染症予防、歯と口の健康づくり、性教育、がん教育、SOS の出し方に関する教育、体力向上に関する取組等）に関する取組を実施しました。

・昨年に引き続き、高等部で実施した SOS の出し方に関する特別授業は、生徒にとって有意義だったと感じます。保健所等の外部機関との連携を積極的に進めながら、健康問題についても児童生徒から相談できる体制の整備や、児童生徒も自分から健康づくりに取り組もうとする態度を育むようにしてください。

10 警察署や消防署、地域の企業等の関係機関及び各家庭と連携し、生活安全、交通安全、災害安全に関する取組を実施しました。

・関係機関と連携した避難訓練等は、地域にある特別支援学校としてとても大切です。今後も関係機関との連携や意見交換を密にして、安心・安全な学校づくりをお願いします。

11 学校医、学校歯科医、学校薬剤師等と連携・協働し、新型コロナウイルス感染症の発生や感染拡大のリスクを低減させるための対策を実行しました。

・教室の換気、手指消毒等の感染対策の他、都から支給された抗原検査とPCR検査キットを適宜利用し、感染症拡大防止対策と陽性者の早期発見に取り組んできました。今後も、継続的に感染症対策を行い、安心安全な学校運営をお願いします。

12 産業医、安全衛生委員会と連携し、「学校における働き方改革推進プラン」に基づく教職員のライフ・ワーク・バランス推進のための対策を実行しました

・より良い教育を実施するためには教職員に「ゆとり」があることがとても重要です。教職員の校務の精選を行い、今後も継続してライフ・ワーク・バランスをより進めてください。

13 窓口担当者の配置や周知、定期的な児童・生徒向けアンケートの実施など、体罰の禁止・根絶やいじめ等の未然防止・早期発見・早期対応に関する取組を実施しました。

・体罰を含むハラスメントは、未然防止が大切です。体罰に関するアンケートの定期実施する、校内での気づきを高めるといったことに加え、窓口を決める、迅速で連携した初期対応、継続支援ができる支援体制の整備を進めてください。また、保護者の協力も得ながら、いつでも、誰でも、どんな時にでも相談する、相談を受け止めるマインドや雰囲気づくりを進めてください。

〈最後に〉

府中けやきの森学園は今年で開校 11 年目を迎えました。堀内校長先生が着任され2年目となり、校内組織や校内環境の整備に加え、学校経営方針である児童・生徒のQOL (Quality of Life:「生活の質」)の向上、安心・安全な学校づくりも府中けやきの森スタンダードとして定着してきています。

今後も児童生徒、保護者、地域の皆さんに取り組みを分かりやすく伝えつつ、更なる府中けやきの森学園の教育の充実を期待しています。以上、令和4年度、評価委員からの学校運営に係る提言とします。